

# 令和7年度孤立集落状況把握・支援訓練 (沖縄県うるま市・内閣府)

## 実施報告書 (概要版)

### 沖縄県うるま市について

- うるま市は、沖縄本島中部の東海岸に位置し、西は沖縄市と接し、東に金武湾、南に中城湾に面している。
- 面積は約87km<sup>2</sup>であり、人口は令和2年時点で約125千人である。

### 主な被害想定

- 石川-具志川断層による地震では、広い範囲で震度6強の揺れが想定される。
- 沖縄本島南東沖地震三連動では、中城湾付近などで広く液状化の危険性がある。  
震度6強が想定される区域では、特に旧耐震基準の建物を中心として、建物被害が多くなることが予想される。



## 訓練概要

- 訓練想定：沖縄県近海でM7の地震が発生、沖縄県うるま市、沖縄市に震度6強を観測。橋等の破損による孤立を想定し、津波警報解除後の動きを想定。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年12月19日（金）14:00～16:00  
【孤立集落状況把握・支援訓練】令和8年1月23日（金）10:00～12:00  
【訓練実施後WS】 令和8年1月23日（金）13:00～14:00
- 主催：うるま市
- アドバイザー：琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコース 神谷 大介教授
- 参加者数：約200名
- 参加機関：沖縄市、うるま警察署、うるま市消防本部、県立中部病院DMAT、沖縄県ドクターヘリ（浦添総合病院）、中城新港地区自主防災組織、応援協定事業所、中城海上保安部
- 訓練項目：情報伝達訓練、避難誘導・安否確認訓練、現地連絡調整所 設置訓練、物資輸送訓練、救護・搬送訓練
- 訓練の特色：地震・津波等の大規模災害発生時において、地理的に孤立する可能性がある地域に対する初動対応、情報伝達、避難支援、物資搬送、医療救護等の一連の行動を関係機関が連携して実践し、対応力の向上を図った。

## 訓練の成果

### 【成果】

- ドローンやドクターヘリ、海上保安庁船艇を使用しての搬送など1地区で同時多発的に実施される複雑な訓練を実施したことにより、関係者の連携が強化された。
- 自主防災組織が地元事業者の参加を得ながら積極的に参画する訓練となった。
- 参加企業が近隣事業者からの避難者を受け入れるなど、地域が一丸となって協力体制を構築できた。

### 【課題】

- 避難生活を送るに当たって、避難所の設備が不十分であるとの指摘があった。通年生活可能な環境とするため、備品類を見直す必要がある。

12月19日(金) 14:00～16:00 訓練実施前ワークショップ

▼神谷アドバイザーによる講話

- ・ 訓練に向けて、目的等を参加者と確認するワークショップを開催した。
- ・ 神谷アドバイザーが自主防災組織の役割等について講話した。



1月23日(金) 10:00～12:00 孤立集落状況把握・支援訓練

- ・ ドローン訓練では、ドローン搭載のカメラを通じてけが人や体調不良者数を確認した。

▼物資輸送用ドローン



- ・ ドクターヘリ輸送訓練では、ヘリ機内の物資も見学した。

▼機内の物資を見学



▼傷病者への対応経験



- ・ 海上保安部訓練では、本島から物資を車に積載し、各所に配付した。

▼傷病者役が乗船



- ・ 近隣の事業者と合同で避難訓練を実施した。

▼本島からの物資を車に積み各所に配付



▼近隣の事業者との合同避難訓練



1月23日(金) 13:00～14:00 訓練実施後ワークショップ

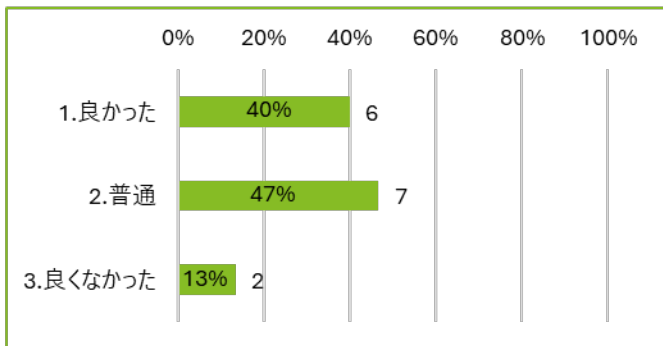
▼振り返りの様子

- ・ 訓練の振り返りを実施し、今後の取り組みについて検討した。
- ・ 地面の固さ、気温の低さなど、避難所での生活を送る上で必要な配慮・支援をしていきたいといった意見が挙がった。

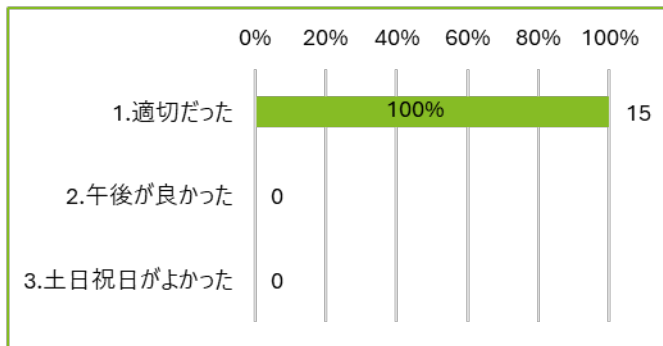


アンケート結果

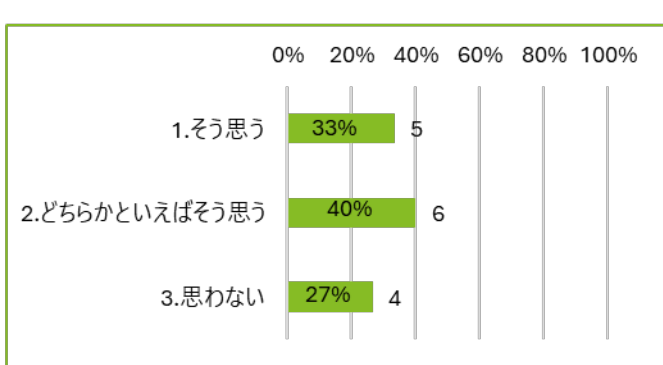
1. 訓練の内容は良かったですか。



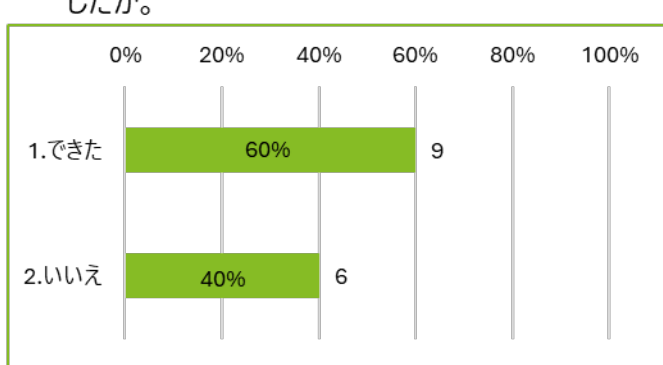
2. 訓練の時間帯は適切でしたか。



3. 災害を想像しやすい内容でしたか。



4. 行政・関係機関の支援状況について理解できましたか。



5. 今後の訓練にも参加したいと思いますか。

